

語釈：インターネット Twitter 上でみる Trump 前米大統領の英語 (42)
 (A Basic Way of Reading Trump-Language)

後藤 寛

日本での入門期の英語にそれほど悩む必要はない。元来は検定本 3 巻のひたすらな音読一辺倒でよいのであるが、この音読が足りない。もちろん意味を理解しての音読 (reading aloud) であるが、意味は分かるまで徹底的な日本語説明が手早い。徐々に必ず語彙力が問題となる。中身のある内容のものを読んで意味が分かりたい。音声で聴いても分かりたいのであるが、これは別。残念ながら日英語では物理学的音波の周波数帯 (frequency band) が違い日本人の民族聴覚に本物で生の英音は馴染まず、ままたまらない。

コロナ感染の注射も実践以前に大学・研究所等での予防薬の開発研究が次々とあるが、教授法として Basic を人に教え授けること (teaching) を考えるには Basic の言語哲学そのものの研究 (learning) が前提となる。本会での教授法もこの Basic 哲学思想を抜きにすると何も成立せずすべてが 0 (ゼロ) となるが、Basic でのメタ言語的定理 (metalinguistic theorems) なるものを発見したいものである。ただ言語の場合は数学のように一定の定理・公式に基づき真 (true) を示し偽 (false) でない ($2 + 2 = 4$, $2 + 2 \neq 5$) とするのは難しい。いずれにせよ、研究成果から副産物として出てくる「教授法」なるものも、それが誰にとっても実践上容易で簡便なものでなければ当然ながら実用度は低く浸透はしない。

今回は (1) でロシア疑惑 (Russian collusion) 関係、(2) では中東関係、そして (3) では Trump 氏が好みのフロリダ州での遊説に向けての思いに関するものを見てみたい。

(1) Despite the tremendous success that I have had as President, including perhaps the greatest ECONOMY and most successful first two years of any President in history, they have stolen two years of my (our) Presidency (Collusion Delusion) that will never be able to get back. The Witch Hunt is over but we will never forget. MAKE AMERICA GREAT AGAIN! (May 5, 2019)

▲「歴代のどの大統領より最初の 2 年間で経済など成功をおさめてきたが、彼らは私 (われわれ) の大統領としての 2 年間で共謀という妄想で台無しにした、決して元に戻らない、魔女狩りはもう終わったが忘れはしない、米国を再び偉大に！」という内容である。

太線語 forget は <for + get> で、「モノが位置づけられる (手に入る) のが前で離れていること」 → 「思い出せない、忘れる」である [拙著 (2016) 「松柏社」、第二部、例 (10) 参照]。forget の語法で “What was that?” — “I forget.” (忘れて思い出せない) と、“Did you do it?” — “I forgot.” (忘れていたが思い出した) の意味の違いには要注意。文構成をすっきりさせるため仮称・MSOE 回転英文母型でこの tweet 例を見てみる。

STATEMENT					
		THEME : NP	RHEME : VP		
STR	C/C	N ₁	COP/V	N ₂ /N ₃ /A	ADV
1	φ	φ	φ	φ	Despite the tremendous success

2	that	I	have had	φ	as President,
3	φ	φ	including	φ	perhaps
4	φ	φ	φ	the greatest ECONOMY and most successful first two years of any President	in history, /
5	φ	they	have stolen	two years of my (our) Presidency (Collusion Delusion)	φ
6	that	φ (= it)	will never be able to get back. //	φ	φ
1	φ	The Witch Hunt	is	over /	φ
2	but	we	will never forget. //	φ	φ
1	φ	φ	MAKE	AMERICA GREAT /	AGAIN ! //

(備考) 単一斜線 (/) は各文での意味的 2 分割線 [このモデルの詳細は *Year Book* (2020) 拙稿参照]。

ある種の **pattern** が何もなしで英文が生み出されるはずはない。本連載でいくつも示しているこの種の**慣用性と関わる pattern** があることはもう否定できない事実だろう。ここでは**何が空(くう) φとなるかも重要なポイント**であることはすでに示唆した。

この例では最初の 6 層の文が挿入句・節が入り 2 分割線が 4 層目の末尾となり、情報処理上の **memory span** (記憶の範囲) とされる **7±2 語(5~9 語)** の各層での語数とは別に、**2 分割線前後での語数**がそれを超えるため全体の理解上でやや負荷がかかる。

(2) **Once again, Israel faces a barrage of deadly rocket attacks by terrorist groups Hamas and Islamic Jihad. We support Israel 100 % in its defense of its citizens. To the Gazan people — these terrorist acts against Israel will bring you nothing but more misery. END the violence and work towards peace — it can happen ! (May 5, 2019)**

▲ 「イスラエルがまたもイスラム主義組織 (ハマス) とイスラム聖戦武装組織 (ジハード) によるロケット砲撃に直面しているが、われわれはイスラエルを全面的に支援し市民を守る。ガザの人民に言うがイスラエルへのテロ行為はさらなる悲惨以外に何もたらさない。暴力をやめて平和のため努力せよ。できることだ！」という内容。関連し、この世で宗教の妙な類のものには要注意である。背景で悩みと一体化する。ある種の悩みからの解放 (救い) を求めている人を、一日にして洗脳(**brain wash**)し入信させる。

太線 2 つの Basic 語 **again** と **against** は同系語。これだけ音形・語形が似ていて同系でないはずはない [本連載(15)の(1)、(29)参照]。原義は同じ「相対すること、互いに何度も向き合うこと」。against[again + st]の末尾 -st は amongst (= among), midst (= mid), etc.と類似の語形 [なお、重要な空間詞 against は EP 本 (筆者はこれを元版 *The Pocket Book of Basic English* に因み PBE 本 / ポケ BE 本とも呼びたい) では提示されない]。

太線語 **barrage** は、本連載(7)の①で見た Basic 語 **board**、プラス α Basic 語 **bar**、un-Basic 語 **border, barricade, barrier, embarrass, etc.** と同系〔同上拙著、第二部、例(81)参照〕。何かを「ふさぐこと、障害物となること」で、この場合 **a barrage of deadly rocket attacks** として用いられている。ここでの **a barrage of** は「連続的な」の意味となる。

太線語 **rocket** はプラス α Basic 語の **rock + et (= small)** で元は形状が石火矢・棒火矢などの兵器に似ていることに由来するが、糸巻き棒の形からとも言われる。

太線の Basic 語 **but** の発生源は本連載(16)の(2)、(28)でやはりすでに見たが、これも改めて確認すれば **out, about** と同系で「外、周りへ向くこと」が原義であり、「～以外」の意味や逆説的な「しかし」の意味となる。なお、**and** は **in** と同系で「内に向くこと」であることも同時に触れた〔さらにはそれぞれ同上拙著、第二部、例(130)、(131)参照〕。

(3) **Getting ready to leave for one of my favorite places, the Florida Panhandle, where we've given and are giving billions of \$\$\$ for the devastation caused by Hurricane Michael. Even though the Dems are totally in our way (they don't want money to go there) we're getting it done!** (May 8, 2019)

▲「自分の好きな土地の1つであるフロリダ州北西部へ行くところだ、ここには何十億ドルもハリケーン(マイケル)による被害では支援してきたし、今も支援している、民主党議員はまったくの妨害をされていてフロリダには資金援助をしたがらないが、われわれはやる!」と言っている内容である。フロリダ州は2018年10月にハリケーンで大変な被害を受けた。1年半ほど後のこの時点での Trump 氏の遊説はフロリダ州の Panama City Beach での集会(rally)であった。ついでながら、**rally** は {r < re (= again) + ally (= line)} で「再び加わり、結びつきをもつこと」が原義。

下線とした **the Florida Panhandle** (フロリダ平鍋の柄の地域) とは地形からの呼び名で、常識的に用いられる。地図で見ると分かるが、北西部が鍋の柄の形をしている。

太線語 **devastation** (荒廃) は本連載(8)②で見た **vast** (果てしない・広大な) と関係がある。「無」の意味でもあり同系語。ラテン系の [v] はゲルマン系では [w] である例はいくつも見てきたが **vast** は Basic 語 **waste** と発生源は同じで同系である。un-Basic 語では **avoid, vacation, vacant, vanish, vain, etc.** が同系〔同上拙著、第二部、例(79)参照〕。

文中での **dollars** の記号化 **\$\$\$** は特徴的な **Trump 正字法(Trump orthography)**。

また、文中で二重下線とした2つの **getting** の **get** であるが、これは魔術的に千変万化し1つの意味を伝える不思議な演算子(operator)である。演算子 **get** の作用が分かれば英語も出口に近くなろう。Basic 語 **get** は本連載(30)でも見たが、PIE etymon の音素形 /GHEND/ に由来し「手でつかんで、ある位置につけること」が原義で「ある状態にする」のであれば事実上何についても言えるのであるが、ネイティブには難なく使えても日本人には上手に使えない。「何かを何かの状態にすること」は因果律(cause-effect)で「何かの状態になること(to become)」であり、この状態は英語ではすべて **get** で演算される。

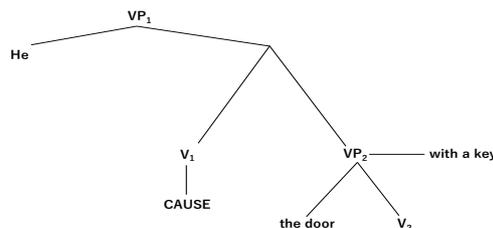
たとえば次のような状況を英語で言語化するとどうなるか?『向こうにドアがあり、初めは閉まった状態にあったが開く状態へと変化した、その変化の原因は帽子をかぶり上着を身につけた男性の人間のしぐさによるものであった、そのしぐさは服飾のポケットに手を入れるもので、ポケットからは道具のカギが出てきた、それが錠前に入れられ、ドアが押されたのであった』。〔EP本(PBE本)[Bk I]、pp. 58-59参照〕

こういう状況は Basic なら **A man with a hat on put his hand in the pocket of his coat, and took out a key. He put the key in the lock of the door, gave the door a push, and the door was opened.** となるが、仮に1文で言うなら不思議にも **A man got the**

door open with a key. (非 Basic で A man opened the door with a key.) のようになる。

なぜ英語でこういう「状況」が「文(S)」となると最初の振り出し「語」が一般に A man とか He となり、hat, put, hand, pocket, coat, took, key, lock, door, gave, push, opened などではないのか？このあたりに事態の本質もあろうが文での始発語決定の問題と関わる。N. Chomsky 風のいわゆる $S \rightarrow NP + VP$ は一般の言語には定理として適用できても、アメリカインディアン語の思考法を分析した B. L. Whorf (1897-1943) による各種の優れた論文などからすれば、そもそも S そのものがどこから来るか？ も不透明となり $S \rightarrow NP + VP$ も言語の普遍文法(universal grammar)とならず問題は複雑化する。このあたりは Chomsky 理論よりさらに進展したものとされる Case Grammar (格文法) の提唱者 C. J. Fillmore の lexical semantics (語彙意味論) とも関わる。

いずれにせよ、今日的には樹形図(tree diagram)とは別に LCS (lexical conceptual structure : 語彙概念構造) からの投射・投影(projection)により SS (syntactic structure : 統語構造) から英語などの言語での S (sentence) が実現する示し方もなされる。



LCS : [He CAUSE [the door OPEN] with a key] \Rightarrow SS : He opened the door with a key. \Rightarrow S : He got the door open with a key. (Basic)

ここでは V₁ (CAUSE) と VP₂ への注目となる。V の opened が got ... open とモノの移動の結果状態(open)にも帰すところがポイントである。Basic の場合は演算子(operation word)で語彙素(lexeme)の get が投射され CAUSE 関数の下で lexical incorporation / insertion (語彙編入/代入) される見方であるが、ここでの一種の定理ともなる。

関連し、たとえば I got up at seven this morning. などは I got <MYSELF> up ... 「私は自分を上向きに位置づける状態にした」のように再帰代名詞の myself を補って考えればよい。こういう場合、たとえばラテン系言語スペイン語では必ず Me levanté ... (= I got myself up ...) と再帰形(reflexive)となるが、それを背景にした見方である〔本会 *Year Book* (2021)、No.73、拙稿参照〕。上の tweet の場合の Getting ready to ... は Getting <MYSELF> ready to ... 、 We're getting it done ! は We're doing it ! と並行する。

今回は以下で、試問を扱うこととする。文中で Basic 語 **get** が表出する例でもある。

試問 段落文誤文訂正： 前回(41)の(1)で扱った tweet 文を用いての誤文訂正である。ここには 1箇所誤りがある。それはどこか？

When will the Radical Left Wing Media apologize me for knowingly getting the Russia Collusion Delusion story so wrong ? The real story is about to happen ! Why is @nytimes, @washingtonpost, @CNN, @MSNBC allowed to be on Twitter & Facebook ? Much of what they do is FAKE NEWS !

段落文の誤文訂正は有益。ネイティブの言語脳にはパターン化された lexicon (レキシコン : mental dictionary) が組み込まれているわけで、慣用性から瞬間に誤りが見抜ける。〔正解 : 1行目の apologize の慣用的語法で後ろに to が必要、重要な空間詞 to との共起性への注目〕

